

LifeFitness

MANUFACTURED BY:

Indoor Cycling Group GmbH
Happurger Str.86
90482 Nuremberg | Germany
info@indoorcycling.com
www.indoorcycling.com
電話 : +49-(0)911-54 44 50

IC4

MODEL NO:IC-LFIC4B1-01

注意 !

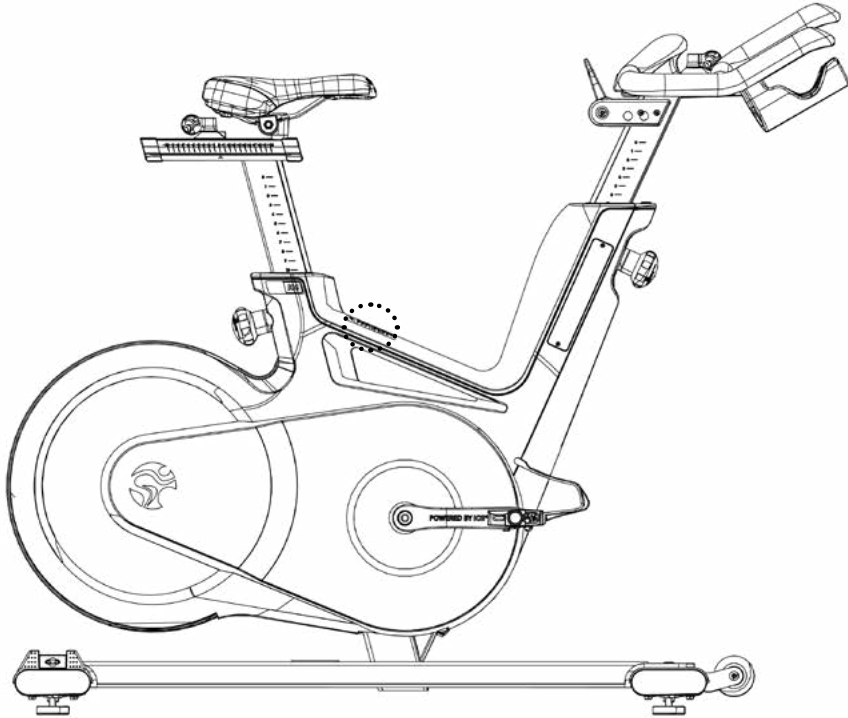
本製品を使用する前に、本説明書に記載されたすべての注意事項および説明を読んでください。本説明書は、いつでも参照できるように保管してください。組み立て、使用、保守が適切に実施されないと、保証条件が無効となる場合があります。

本書は、以下のサイトから他言語版もダウンロードいただけます : WWW.INDOORCYCLING.COM

Version 1.0 2017 IC-LFIC4B1-01 Copyright by Indoor Cycling Group GmbH 2017 | www.indoorcycling.com



注意



インドアサイクルの警告ラベルは、組立の工程中に、装置が使われる国のネイティブ言語での警告ラベルに置き換える必要があります。



注意



EN

To download the owners manual in your language, visit the IC4 support section at: www.teamicg.com



DE

Um das Handbuch in Ihrer Sprache herunterzuladen, besuchen Sie bitte den IC4 Support Bereich auf unserer Webseite unter www.teamicg.com



FR

Pour télécharger le manuel d'utilisation dans votre langue, consultez la section Assistance IC4 sur: www.teamicg.com



IT

Per scaricare il manuale nella vostra lingua, visitate la sezione del supporto per IC4 su: www.teamicg.com



NL

Ga om de gebruiksaanwijzing in uw taal te downloaden naar het IC4 supportgedeelte onder: www.teamicg.com



ES

Para descargarse el manual de usuario en su idioma, por favor acceda a la sección de soporte técnico de la bici IC4 en: www.teamicg.com



PT

Para transferir o manual de utilizador no seu idioma, visite a secção „Suporte“ da IC4 em: www.teamicg.com



DK

Besøg IC4 supportafsnittet www.teamicg.com for at downloade brugermanualen på dit sprog



FI

Lataa omistajan käsikirja omalla kielelläsi IC4-ohjeosiosta sivustolta: www.teamicg.com



NO

Du kan laste ned bruksanvisningen på ditt eget språk ved å gå til IC4 støttesiden på: www.teamicg.com



SE

Du kan hämta bruksanvisningen på ditt språk under IC4-support på www.teamicg.com



PL

Aby pobrać podręcznik użytkownika w swoim języku, należy wejść na zakładkę IC4 support na stronie: www.teamicg.com



TR

Kullanıcı kılavuzunu kendi dilinizde indirmek için www.teamicg.com sayfasının IC4 deste bölümünü ziyaret edebilirsiniz



CN

在IC4的客户服务网站，您可以下载各种语言的用户手册 www.teamicg.com



JP

オーナーズマニュアルの各言語版は、以下サイトの IC4 サポートページからダウンロードいただけます。 www.teamicg.com



KR

IC4 지원 센터(www.teamicg.com)에서 해당 언어 버전의 사용설명서를 다운로드할 수 있습니다.

目次

重要注意事項	5ページ
はじめに	6ページ
インドアサイクルの組み立て	7~11ページ
設置と設定	12ページ
インドアサイクルの調整	13~15ページ
インドアサイクルの操作	16~18ページ
予防保守	19~22ページ
保守作業と実施プラン	23~24ページ
交換部品	25ページ
保証	26ページ

技術仕様

LIFE FITNESS IC4 インドアサイクルは、EN ISO 20957 (1 および 10) で定めるクラスS に属する製品で、スポーツ施設やフィットネスセンターなどの管理された環境で、トレーナーの監視のもとに使用することを前提としています。

装置重量 :	50 KG
使用者の体重 :	150KG 以下
使用者の身長 :	約 155 ~ 215CM の方に適しています。
必要な設置面積 :	約 132 X 52 CM
サドルおよびハンドルバーの高さ :	約 120CM 以下

重要注意事項

警告！

装置の不適切な使用によって重傷を負う危険を避けるため、インドアサイクルの使用を開始する前に以下に記載した重要注意事項と説明をよく読み、必ずこれに従ってください。

- 1.全ユーザーが正しい使用方法に関するすべての警告・注意事項を承知していること。また、使用前に必ず適切な資格を有するトレーナーやインストラクターの個人指導を受けること。この2点を徹底するのは、装置所有者の責任とします。
- 2.本説明書の記載に従ってきちんと組み立ておよび検査が終了するまで、インドアサイクルを使用しないでください。
- 3.インドアサイクルは必ず室内に設置し、湿気やほこりの多い場所は避けてください。インドアサイクルを屋外の車庫や屋根付きのテラス、水やプールの近くなどに設置しないでください。インドアサイクルは、温度が 15°C~40°C (59°F~104°F)、湿度が 65%以下の環境で使用してください。
- 4.インドアサイクルは、必ず安定した水平な床の上に設置してください。堅木の床やカーベットの下に設置する場合には、インドアサイクルの下にフロアマットを敷き、床を傷から守ることをお勧めします。
- 5.インドアサイクルで規定の安全性を維持するため、損傷や摩擦などが無いが、必ず定期的に点検してください(固定部、非常用ブレーキ、ペダル、トーストラップなど)。定期点検の正しい実施については、正規のサービスプロバイダーまたは直接、製造者にご相談ください。
- 6.本説明書に記載されたすべての保守および手入れ作業を定期的の実施してください。損傷した部品はすぐに交換し、修理作業が完了するまで装置を使用しないでください。製造者が提供する純正の交換部品以外は使用しないでください。修理作業は、必ず、製造者が認定するサービス技術者が実施するものとします。
- 7.監視のない状態でお子様をインドアサイクルに近づけないでください。
- 8.14歳未満のお子様インドアサイクルを使用する場合には、保護者の許可および適切な資格を有するトレーナーまたはインストラクターの監視が必要となります。14歳以上のお子様については、使用前に必ず、適切な資格を有するトレーナーまたはインストラクターの指導を受けさせてください。
- 9.体重が 150キロ (330ポンド) を超える方がインドアサイクルを使用することを禁じます。
- 10.使用時には、体にぴったりフィットするサイクリング用またはスポーツ用のウェアおよび丈夫なシューズ(できればサイクリングシューズ)を着用してください。靴ひもがほどけていると、駆動部に靴ひもが巻きこまれ、怪我を負う恐れがあります。
- 11.インドアサイクルには、独立して動作するフライホイールは装備されていません。フライホイールが停止するまで、ペダルは動き続けます。動きを止めるには、非常用ブレーキを 작동するか、ペダルの回転を意識的に緩めていくしかありません。インドアサイクルは必ず抵抗が感じられる状態で漕ぎ、無茶なペダル動作は避けてください。トレーニング中にハンドバーやサドルを調整しないでください。ペダルの逆漕ぎはやめてください。
- 12.トレーニング中に痛みや目まいを感じたら、すぐに使用を中止してください。長期にわたって痛みが治まらない場合には、医師にご相談されることをお勧めします。

警告！

健康上の問題や体に障害がある方については、最善のトレーニング方法について、かかりつけの医師にご相談されることをお勧めします。間違った方法でのトレーニングや過剰なトレーニングは、重大な健康上の問題を引き起こす恐れがあります。

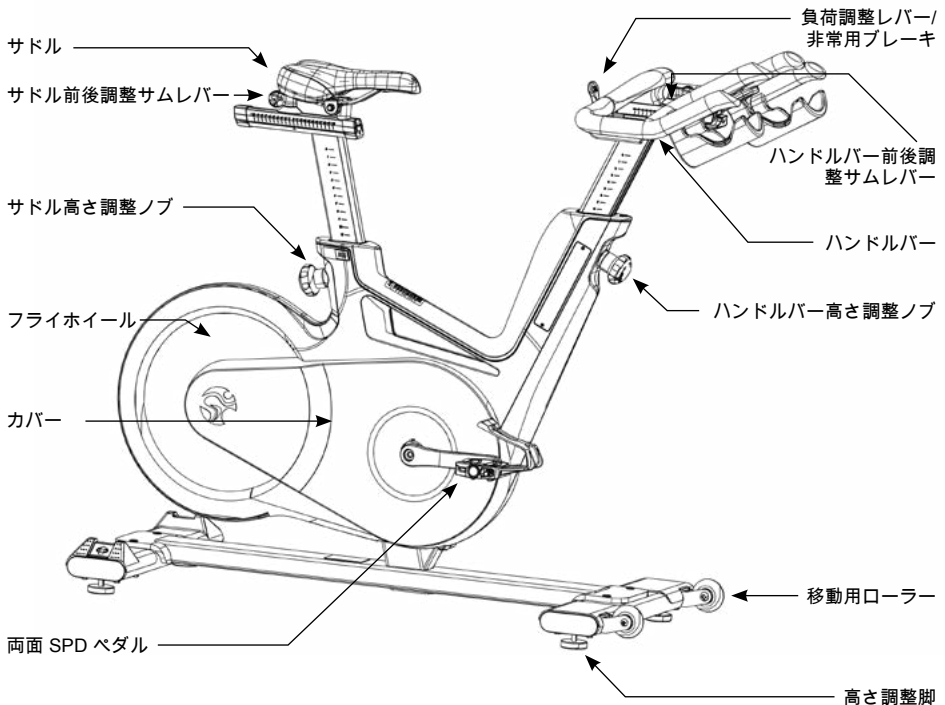
本装置の使用により発生しうる健康上のリスク、人身傷害、物的損害または二次的損害に対し、製造者は一切の責任を負わないことをここに明記します。ただし、材質や製造上の欠陥が原因であり、製造者の責に帰する場合には、この限りではありません。

はじめに

本製品をご購入された皆様へ

このたびは、インドアサイクルをご購入いただき誠にありがとうございます。高品質を誇る LIFE FITNESS インドアサイクルは、最新技術に基づいて設計されており、品質および信頼性において最高基準を満たす製品です。

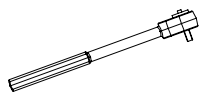
しかし、この高い信頼性も、定期的な手入れや保守が実行されないと、維持することはできません。本説明書の記載内容に従って保守を行うことにより、保守にかかる手間を最小限に抑えながら、安定した機能性と製品寿命の向上を実現することができます。これが、長期にわたって問題なく製品をご使用いただけることにもつながります。



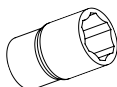
警告！

LIFE FITNESS IC4 インドアサイクルの製造番号は、装置の脳フレームパイプ上部の銘板に記載されています。保守チェックリストにこの番号を記入してください。保証請求の際には必ずこの製造コードが必要になります。

インドアサイクルの組み立て



トルクレンチ

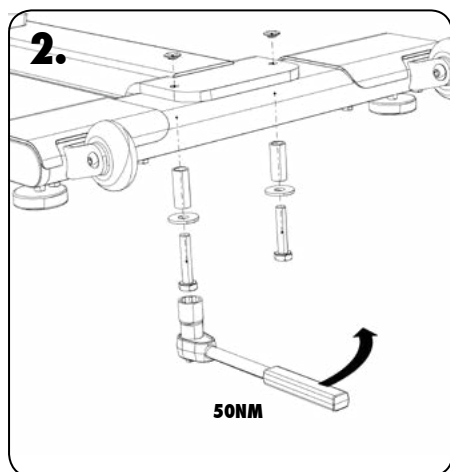
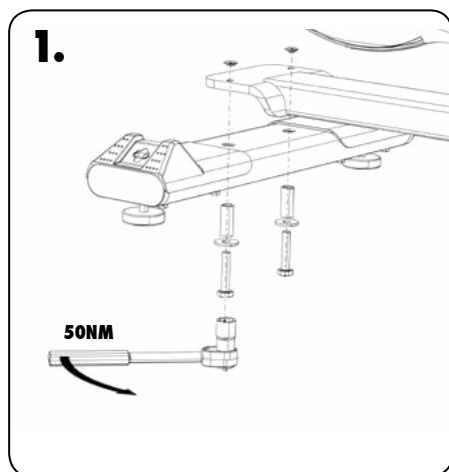


17MM

2人組で
作業

警告!

購入後、インドアサイクルを設置場所に移動する際には、激しい温度差を避けてください。激しい温度差が生じてしまった場合には、組み立てを実施する前に、まずインドアサイクルを周囲温度に馴染ませてください。



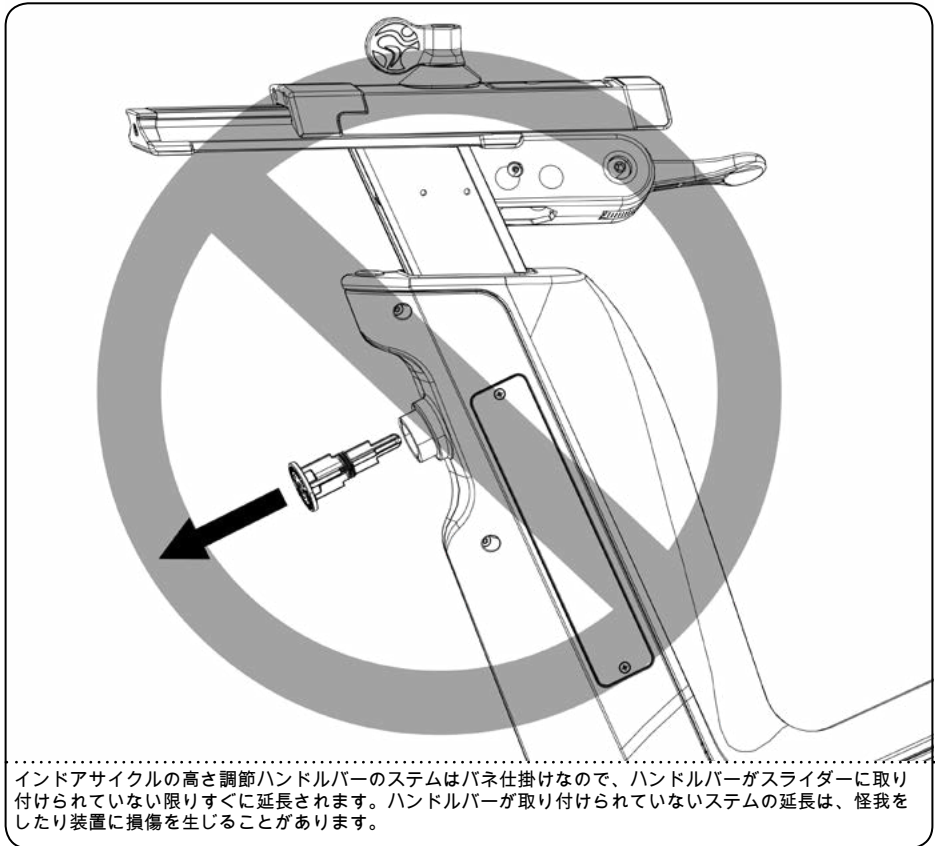
警告!

使用中に緩まないよう、ボルトは指定のトルクで十分に締め付けてください。初回組み立て後にボルトを外した場合には、接着力が中程度の LOCTITE® 243 を使って再組み立てを行うことをお勧めします。

インドアサイクルの組み立て

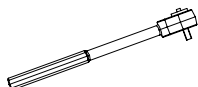
怪我の危険！

ハンドルバーを上部前後調整ハンドルバー
スライダーに取り付ける前に、安全ピンを
取り外さないで下さい！



インドアサイクルの高さ調節ハンドルバーのステムはバネ仕掛けなので、ハンドルバーがスライダーに取り付けられていない限りすぐに延長されます。ハンドルバーが取り付けられていないステムの延長は、怪我をしたり装置に損傷を生じることがあります。

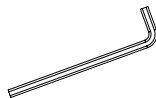
インドアサイクルの組み立て



トルクレンチ



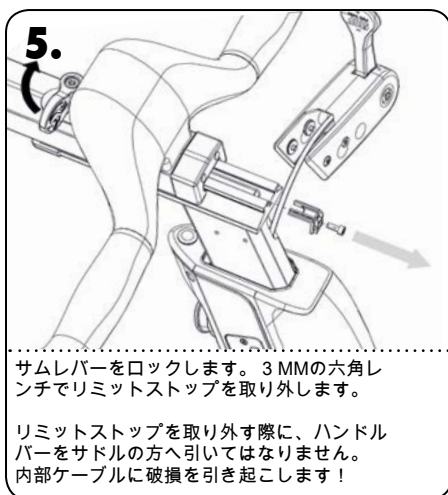
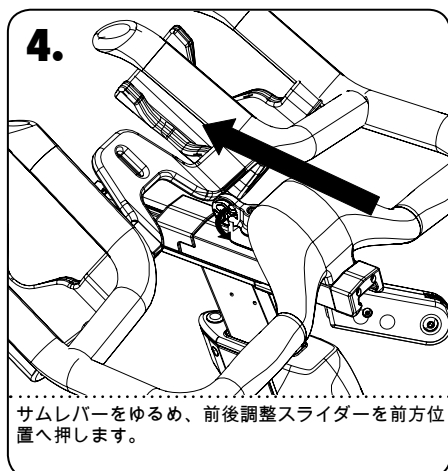
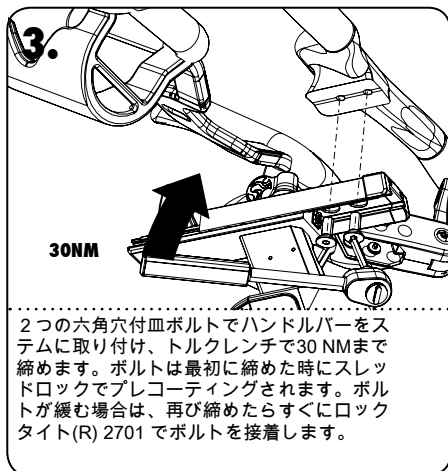
6 MMボール六角ソケット



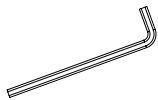
3 MM



2人組で作業



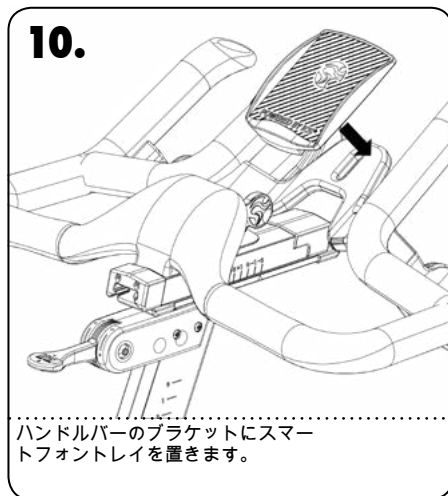
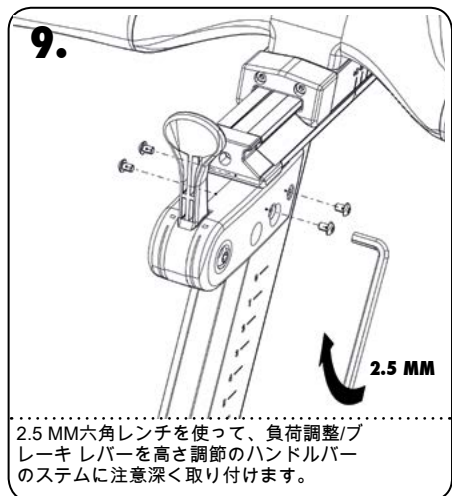
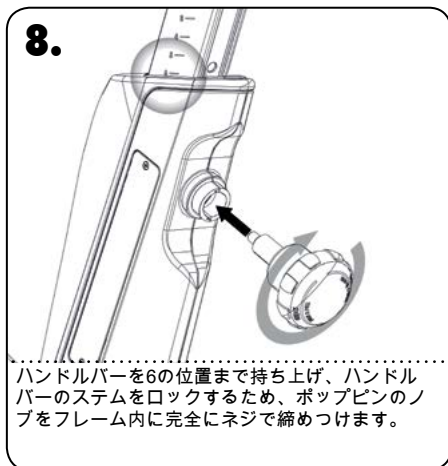
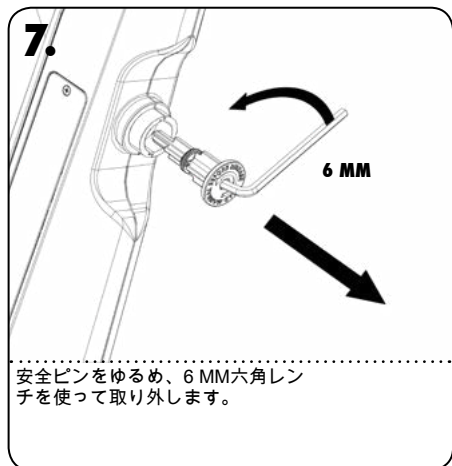
インドアサイクルの組み立て



2.5 MM と 6 MM



2人組で作業



インドアサイクルの組み立て



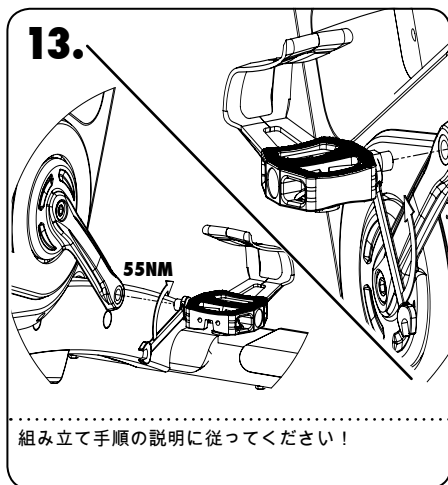
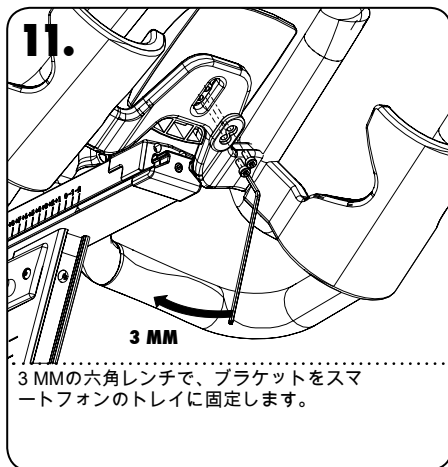
15 MMペダル
レンチ



3 MM



2人組で
作業



警告！

「R」と表記されたペダルを右のクランクに取り付け、時計回りに回して固定します（標準の右ねじ）。「L」と表記されたペダルを左のクランクに取り付け、時計と反対回りに回して固定します（左ねじ）。いずれのペダルについても、使用中にボルトが緩まないよう、必ず十分なトルク（55Nm）で締め付けてください。

使用中の緩みを防ぐため、ボルトは、TufLok®が塗布された状態で出荷されます。初回組み立て後にボルトを外した場合には、接着力が中程度のLOCTITE® 243を使って再組み立てを行うことをお勧めします。

設置と設定

性能を最大限に活用し、寿命を向上するため、LIFE FITNESS インドアサイクルの初回設置では、本説明書に記載された内容を守ってください。以下の説明をしっかりと読み、その内容に従ってください。インドアサイクルの設置および設定が記載通りに行われないと、部品が過剰に摩耗し、装置を損傷する恐れがあります。設置についてご不明な点がございましたら、service@indoorcycling.com までご連絡ください。

ご注意ください：保守作業の中には、潤滑剤が必要となる項目があります。無酸性・無溶剤タイプのスプレー潤滑剤および白いリチウムグリス以外は使用しないでください。

1. 装置が水平であることを確認します。床の上でガタつく場合には、前後スタビライザーの下にある高さ調整脚を回し、ガタ付きをなくします。調整の際、高さ調整脚が10mm以上飛び出さないように注意してください。

2. 非常用ブレーキがきちんと機能するかを点検します。

3. 両側のクランクアームで、クランクを固定している六角穴付ボルト（左右のクランク軸受部）がきちんと締め付けられているか点検します（締め付けトルク 60Nm）。使用中の緩みを防ぐため、ボルトは、TufLok® が塗布された状態で出荷されます。

クランクを固定しているボルトが緩んできたら、接着力が中程度の LOCTITE® 243 をボルトに塗布し、60Nm のトルクでボルトを締め直すことをお勧めします。

4. 酸および溶剤フリーのスプレー潤滑剤で湿らせた布を使い、自転車フレームからほこりを拭き取ります。

5. 輸送中に装置の部品が緩んでしまう場合があります。クランクアームをはじめ、外側から見える場所にあるねじ、ボルト、ナットのすべてで、緩みがないか、きちんと締め付けられているかを点検します。

カスタマーサービス

1. 基本的な保守についての説明書をお客様に手渡し、詳しい保守作業を指導します。

2. 装置を引き渡す際に、取扱説明書をお渡ししたこと、保守作業についてご説明したこと、装置の状態に問題がないことをお客様にご確認いただき、規定の用紙に署名を取り付けます。その写しの一部に自分も署名し、これをお客様保管用としてお渡します。

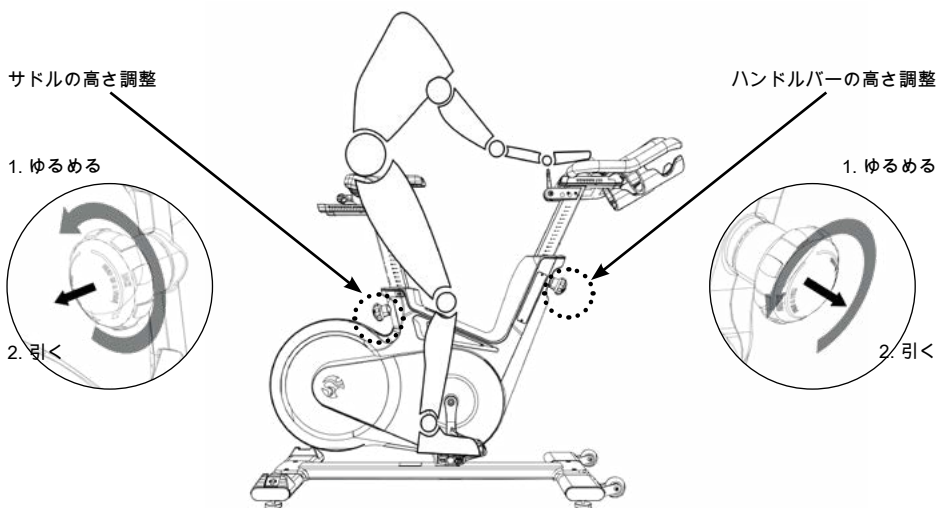
3. 修理作業は、必ず、製造者が認定するサービス技術者が実施するものとします。

インドアサイクルの調整

LIFE FITNESS インドアサイクルは、様々な種類のユーザーに合わせた調整が簡単に行えます。これにより、最大限の乗り心地とトレーニング成果を同時に実現。以下の説明では、インドアサイクルで可能な調整パターンの中から、最も頻繁に使われるいくつかのみをご紹介します。インドアサイクルを最適なライディングポジションに調整する作業は、ユーザー自身がその責任において行います。

サドル高さの調整：

サドルの上に座ります。ペダルを図のような位置にした状態で、腰が左右どちらにも傾いてないことを確認します。シューズを履いた状態でペダル上のトークリップ（ケージ）、又はサイクリングシューズを着用している場合には、ビンディングに足を乗せます。



警告！

トレーニング中には、サドルやハンドルバーを調整しないでください。サドルに腰掛ける前に、サドルとハンドルバーの高さ調節に使うポップピンノブがきちんと締めてあるか、前後調節のサムレバーが閉じているかを確認します。ハンドルバーやサドルを調整するときは、常に装置から降りて下さい。

ゆっくりとペダルを漕ぎ始め、図の位置でペダルを止めます。調整用のスライドでサドルの高さを調整します。この一番低いペダル位置で、腰がどちらか一方に傾くことなく、膝が常に軽く曲がるように調整してください。大まかな目安：装置の横に立った状態で、サドルの上面が腰骨より手の幅 / 指4本分、下に来る位置です。膝が伸び切ってしまう状態や腰が一方に傾いた状態でのトレーニングは避けてください。

インドアサイクルの調整

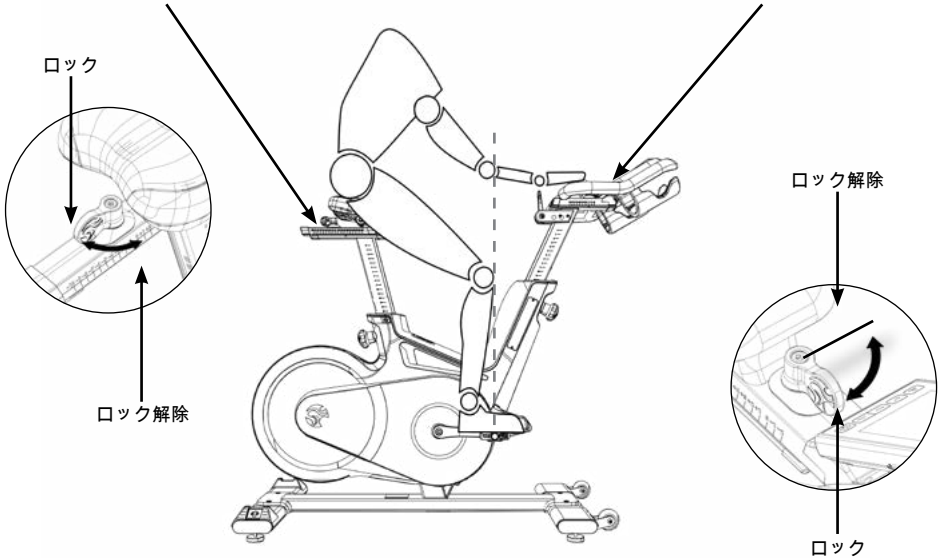
サドルの前後調整：

膝の怪我を避けるには、前後方向のサドル位置をきちんと調整することが非常に重要です。サドルの上に座り、クランクアームが水平になる位置までペダルを動かします。

前方を向いている方の膝が、ちょうどペダルの中心の上であれば、正しい調整です。そうでない場合には、サドル位置を前または後ろに動かし、膝がペダル中心の上になるように調整します。

サドルの前後調整

ハンドルバーの前後調整



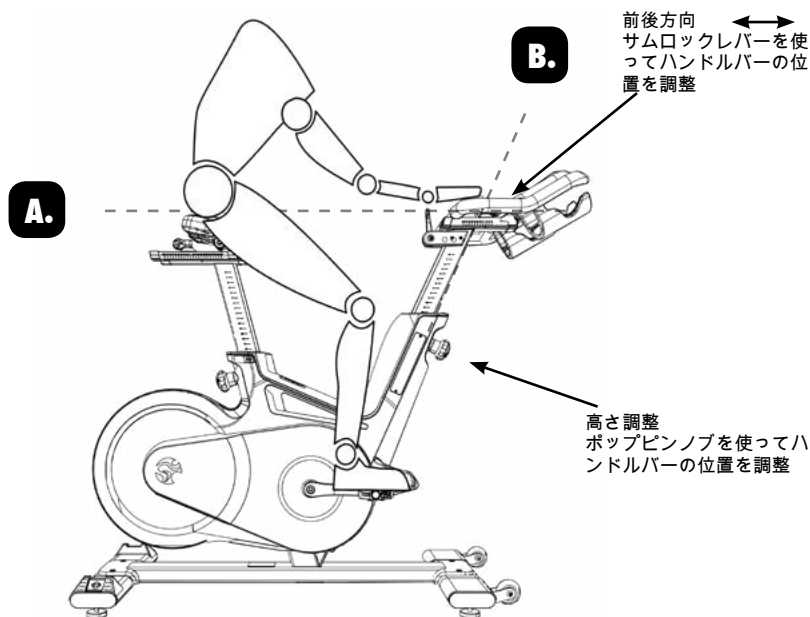
警告！

サドルに腰掛ける前に、サドルとハンドルバーの高さ調節に使うポップピンノブがきちんと締めてあるか、前後調節のサムレバーが閉じているかを確認します。ハンドルバーやサドルを調整するときは、常に装置から降りて下さい。

インドアサイクルの調整

ハンドルバーの位置：

経験の浅いユーザーでは、ハンドルバーをサドルとほぼ同じ高さ（以下の図で点線 A）で、「0」の印に合わせます（以下の図で点線 B）。立ち漕ぎをすると膝がハンドルバーに当たる場合や、長時間漕いでいると背中に不快感を覚える場合には、ハンドルバーをまず少し高い位置に調整します。



次に、ハンドルバーの高さを、ユーザーの身長に合わせてできるだけ正確に調整します。経験の浅いユーザーでは、背中が水平線（A）に対して45度に傾いた状態が、理想的で快適なライディングポジションです。

ハンドルバーでは様々な手の置き位置や調整が可能のため、経験豊富なユーザーは、自分で自由に理想のライディングポジションや手の位置を見つけることができます。

長時間にわたるトレーニングでは、手の位置を頻繁に変えることをお勧めします。これにより、筋肉、じん帯、関節に偏った、または単調な負荷をかけずに済みます。

インドアサイクルの操作

負荷の調整：

負荷調整/非常用レバーを上下に動かして、負荷の正確な微調整をユーザーのニーズに合わせて行うことができます。調整レバーの可動範囲は110度です。レバーが上った時の負荷は0%で、下げた位置にあるときは100%です。動きが100%を超えた場合はブレーキが運動します。トレーニングの負荷はインドアサイクルのコンピューターに正確に表示されます。このインドアサイクルは磁気ブレーキシステムを装備しているため、負荷はペダリング回数とともに増加します。

負荷がかかっている状態でペダルを逆に漕ぐことは、絶対に止めてください。ペダルとクランクアームを固定しているボルトが緩んでしまい、場合によっては外れることもあります。使用中にフライホイールを止めるには、負荷調整 / 非常用ブレーキレバーを上から押し下げる必要があります。トレーニング中は、ペダルに設置されているトークリップ（ケージ）にシューズをきちんとはめ、また、サイクリングシューズ着用時は、SPDクリートがきちんと固定されていることを確認してください。

本インドアサイクルには、独立して動作するフライホイールは装備されていません。フライホイールはペダルに固定されており、ユーザーがペダルを漕ぐのをやめても、フライホイールは回り続けます。無理な漕ぎ方はせず、停止したい場合には意識して速度を下げていくか、負荷調整 / 非常用ブレーキレバーを押してすばやく速度を下げれば、フライホイールを停止してトレーニングを中断できます。

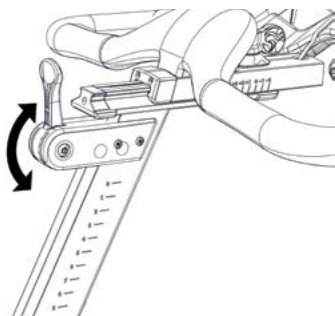
非常用ブレーキ = 赤い負荷調整 / 非常用レバーを押します。

警告！

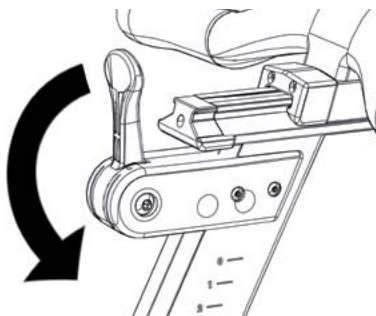
インドアサイクルでは、ペダルを前に漕ぐ以外の動作は避けるようにしてください。ペダルを逆漕ぎしている間は、非常用ブレーキの機能が制限されます。トレーニング中やサドルに乗っている間は、サドルやハンドルバーの前後調整や高さ調整を行わないでください。

インドアサイクルの操作

負荷調整レバー



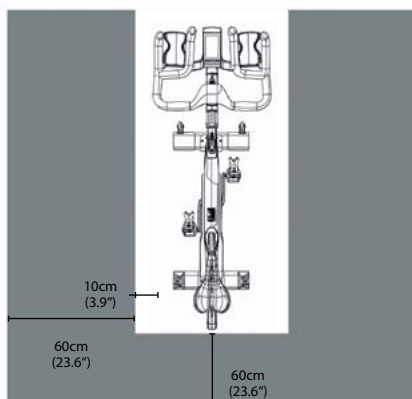
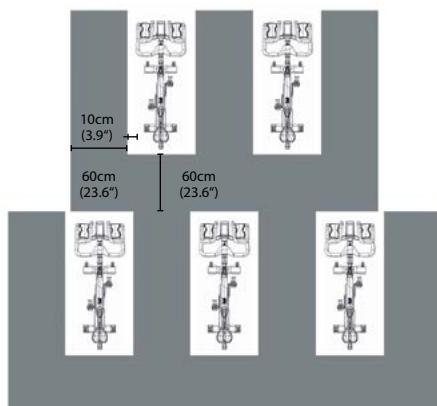
非常用ブレーキ
(負荷調整レバーを押し下げる)



安全のため、無茶な漕ぎ方はせず、ご自分のサイクリング能力に合わせた速度でペダルを漕いでください。

インドアサイクルの移動：

インドアサイクルを移動する際には、2人組で作業することをお勧めします。事故やハンドルバーの差し込みソケットで損傷を避けるため、ホイールを傾ける前に、ハンドルバーの高さ調整部をしっかりと固定してください。凹凸のある床の上を移動する際には、細心の注意を払ってください。インドアサイクルガーター方に傾くことがないように、2人組で作業することをお勧めします。以下の図に示したように、隣接する装置や物体、壁などから、最低安全距離を確保してください。

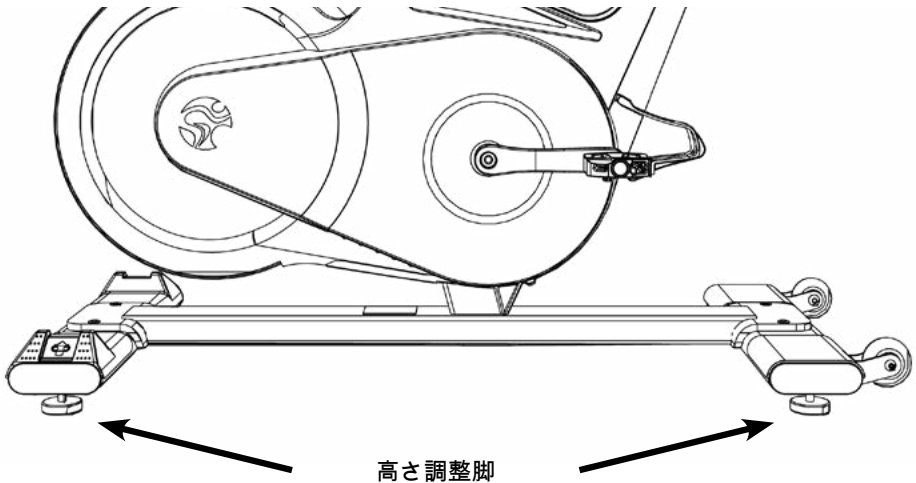


インドアサイクルの操作

設置場所でインドアサイクルが安定しているかどうかを点検し、必要な場合には、前後スタビライザーの下にある高さ調整脚を回し、ガタ付きをなくします。

重要！

高さ調整脚が1cm以上飛び出さないように注意してください。固定式ではないインドアサイクルは、必ず安定した水平な床の上に設置して使用してください。



予防保守

警告！

以下の記載内容をきちんと守ってください。使用時の安全性および寿命を最大限に維持するため、保守と手入れは規定の頻度で実施することが非常に重要です。保守および手入れが定期的に行われないと、製品の摩耗が進み、また、製品保証は無効となります。このテーマについて何かご不明な点がある場合には、当社の技術サポートまでお問い合わせください。

インドアサイクルの部品が損傷するのを防ぐため、当社が推奨する無酸性・無溶剤タイプの手入れ剤（Brunox など）以外は使用しないでください。

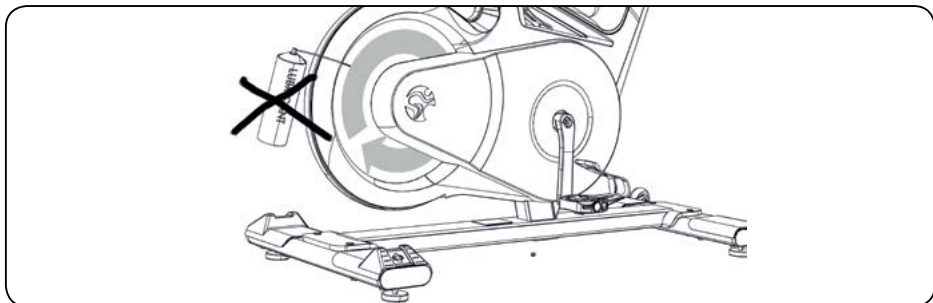
毎日実施する保守：

1. インドアサイクルが水平でガタついていないことを確認します（必要に応じて、18ページの説明を参照して調整）。
2. 清掃：清潔を保つため、毎使用後、インドアサイクルの定期清掃を実施してください。柔らかい布やペーパータオル、手入れ剤や消毒剤を十分な量、準備しておきます。まずサドルとハンドルバーを適切な消毒剤で消毒し、その後、インドアサイクル全体から汗の跡などを拭き取ります。

毎週実施する保守：

1. 清掃：インドアサイクルの使用頻度に応じ、最低1週間に1度、徹底的な清掃を実施してください。スプレータイプの手入れ剤を柔らかい布に吹き付け、全プラスチック製部品、フライホイール全体、スタビライザーを含むフレーム露出部分、プラスチック製カバーを清掃します。

メンテナンススプレーやその他を、簡単にクリーニングするため直接フライホイールやペダルにスプレーしてはなりません。これによって使用中に駆動ベルトのスリップ、ブレーキ性能の低下、内部部品への損傷を生じる可能性があります。



予防保守

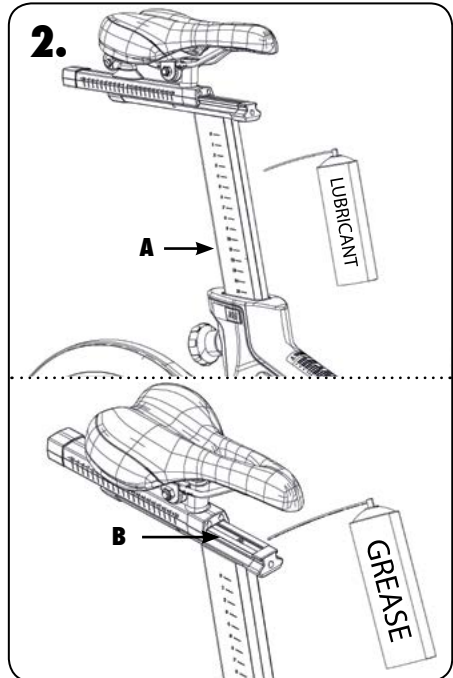
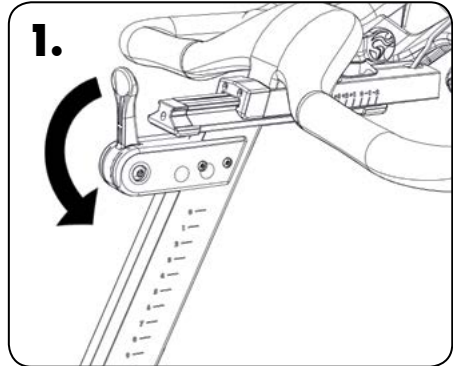
隔週実施する保守：

1.非常用ブレーキ：使用時の安全性を維持するため、非常用ブレーキを定期的点検し、正常に作動することを確認してください。これを行うには、ペダリング中に負荷調整/ブレーキレバーを完全に下まで押し下げます。すぐにブレーキが効き、フライホイールが完全に停止すれば、理想的な状態です。

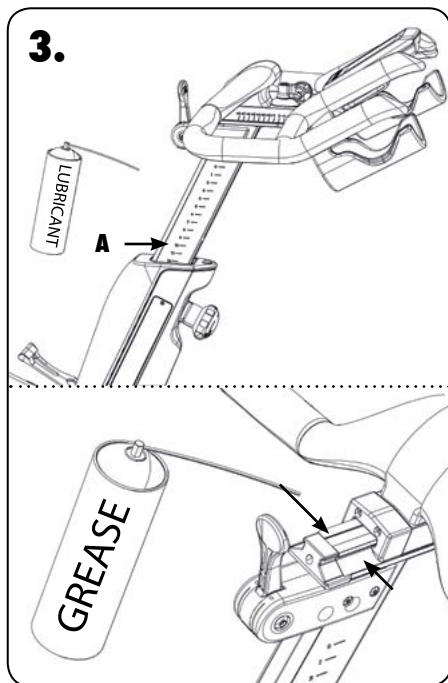
非常用ブレーキが作動すると、フライホイールが完全に停止し、ペダルにかかっている圧力が開放されるまで、フライホイールのブレーキは解除されません。

2.サドルの調整部：楽に調整を行えるよう、サドルの前後および高さ調整用ポストを定期的に清掃・潤滑してください。高さ調整用ポスト (A) を一番上の位置に合わせ、スプレー手入れ剤を吹き付け、前後調整用ポストも含め、表面全体を柔らかい布で磨きます。

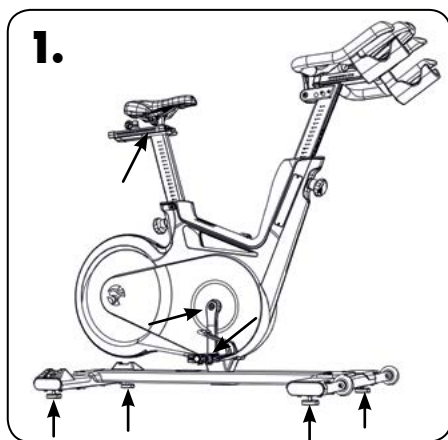
サドル前後調整用ポストの接触面 (B) から、まず汗の跡などを拭き取り、その後必要に応じ、少量のリチウムグリスを塗布します。



予防保守



3.ハンドルバー：楽に調整を行えるよう、ハンドルバーの前後および高さ調整用ポストを定期的に清掃・潤滑してください。ハンドルバーを一番上の位置に合わせ、高さ調整用ポスト (A) にスプレー手入れ剤を吹き付け、前後調整用ポストも含め、表面全体を柔らかい布で磨きます。ハンドルバー前後調整用ポストの接触面 (B) から、まず汗の跡などを拭き取り、その後必要に応じ、少量のリチウムグリスを塗布します。

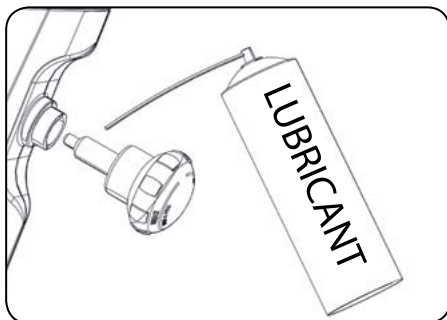
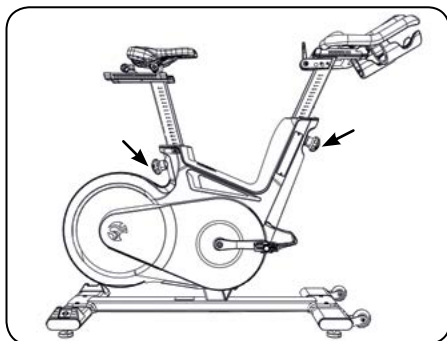


毎月実施する保守：

1.接合部：定期保守・手入れを実施する際に、インドアサイクルのボルトやナットなどがすべてきちんと固定されているか、正しく機能するかを点検し、摩耗や損傷が見られる部品（サドル、トーストラップ、ペダル、SPDシステム）は交換してください。

予防保守

2.ハンドルバーとサドルの高さ調整部：
高低ハンドルバーとサドルポストが簡単に調整できるためには、ポップピンノブのねじが潤滑していなければなりません。リチウムグリスがお勧めです。



保守作業と実施プラン

作業	頻度	詳細
装置の高さ調整、消毒および清掃	毎日	19ページ
詳細な装置全体の清掃	毎週	19ページ
非常用ブレーキの機能点検	2週間に1回	20ページ
サドルとハンドルバースライダー/ステムの清掃と潤滑油塗布	隔週	20ページ
全接合部・固定部の点検	毎月	21ページ
高さ調整 ハンドルバーとサドル	毎月	22ページ

社内保守担当者のための保守プラン表（例）：

毎週実施する保守チェックリスト					
装置番号	製造番号	特記事項	実施した作業	結果	実施者 / 日付

保守作業と実施プラン

2週間に1回実施する保守チェックリスト

装置番号	製造番号	特記事項	実施した作業	結果	実施者 / 日付

毎月実施する保守チェックリスト

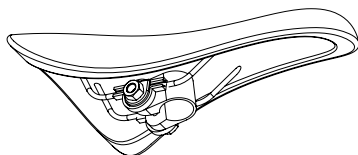
装置番号	製造番号	特記事項	実施した作業	結果	実施者 / 日付

交換部品

改訂のため、交換部品注文番号と仕様は変わる可能性があります。
詳細は最寄りの販売代理店へお問合せいただくが、www.indoorcycling.com をご参照下さい。

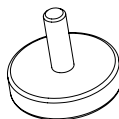
120-01-00015-02

スポーツサドル
黒 & 赤 (サドルクランプを含む)



900-10-00003-01

高さ調整脚、硬度75度 ゴム脚



150-01-00005-03

コンビネーションペダラー式、
SPDシステム対応



150-03-00048-01

トーストラップセット



保証

ICG は、新品の全装置において、製造施設における初期組み立て時点で、製造上および材質上の欠陥がないことを保証します。本保証の枠内で修理または交換された部品については、元の保証期間の範囲内でのみ保証が適用されます。ICG は、製品が、設計で想定されている室内空間（温度 15°C ~ 40°C (59°F ~ 104°F)、湿度 65%以下、プール近辺または屋外ではない場所）で使用されている限りにおいて、製造者保証で定められた責任を果たす義務を負うものとし、明らかに意図的な機械的衝撃を製品に与えること、あるいは製品の不適切な使用または取り扱い、保証を無効にする場合があります。製造者が保証義務を履行できるよう、顧客（フィットネス施設）は、各製品の取扱説明書で製造者が定めるように、製品の保守およびサービスを実施する義務を負うものとし、

5年保証：	フレーム構造および溶接
3年保証：	パウダー塗装（塗装クラック、腐食） ハンドルバーおよびサドルポストユニット （アルミニウム製部品および PVC 塗装） ベルト駆動システム パワーセンサー クランク軸受ユニット フライホイールおよびハブユニット クランク ペダル（ピンディングシステムおよびストラップを除く） ハンドルバーおよびサドルポスト用差し込み固定具 ボータンケーブル（ブレーキ調整） ブレーキシステム ガスダンパー 高さ調整脚 カバー類
1年保証：	サドル構造（網目とサドル表面を除く）

以下の消耗品は保証対象外です。
ペダルストラップ、ペダルピンディングシステム、サドル表面。

注意

た。Yに、う。
れい。Yに、う。
ささ。Yに、う。
載だ。Yに、う。
記く。Yに、う。
に。Yに、う。
書ん。Yに、う。
明説。Yに、う。
説て。Yに、う。
本。Yに、う。
に。Yに、う。
を。Yに、う。
す。Yに、う。
も。Yに、う。
不。Yに、う。
適。Yに、う。
な。Yに、う。
場。Yに、う。
合。Yに、う。
照。Yに、う。
切。Yに、う。
な。Yに、う。
は。Yに、う。
が。Yに、う。
あ。Yに、う。
み。Yに、う。
守。Yに、う。
り。Yに、う。
ま。Yに、う。
よ。Yに、う。
立。Yに、う。
を。Yに、う。
ま。Yに、う。
う。Yに、う。
て。Yに、う。
行。Yに、う。
す。Yに、う。
ま。Yに、う。
よ。Yに、う。
立。Yに、う。
を。Yに、う。
ま。Yに、う。
う。Yに、う。
て。Yに、う。
行。Yに、う。
す。Yに、う。
ま。Yに、う。
よ。Yに、う。
立。Yに、う。
を。Yに、う。
ま。Yに、う。
う。Yに、う。
て。Yに、う。
行。Yに、う。
す。Yに、う。

LifeFitness

電子メール : INFO@INDOORCYCLING.COM
ウェブサイト : WWW.INDOORCYCLING.COM

© 2017 Indoor Cycling Group

製造元 : Indoor Cycling Group® GmbH
Happurger Str.86, 90482 Nuremberg, Germany